



ずるずると「先延ばし」をしないために！

1 勉強と憂うつな気持ち

勉強を始めようとする、多少憂うつな気持ちになった経験を、誰もが一度は、経験したことがあると思います。この感情は、自然なことで、特別なものではないです。しかし、この感情が「先延ばしする」という行為と結びついて、常態化してしまうと、子どもの学力向上に大きなダメージを与えることになります。

2 先延ばしと算数科の関係

算数科は、「学習内容を積み上げていく教科」として、理科とよく似た特徴をもっています。各学年で学んだ学習内容の理解及びその活用の結びつきが強固です。そのため、各学年の学習内容が定着していないと、学年が上がるとともに、問題を解くことが困難になってきます。

高層建築物										1年～6年の学習内容の理解とその活用									
										1年～5年の学習内容の理解とその活用									
										1年～4年の学習内容の理解とその活用									
										1年～3年の学習内容の理解とその活用									
										1年・2年の学習内容の理解とその活用									
										1年の学習内容の理解とその活用									
強固な岩盤										家庭教育									

例えるならば、高い建物を建築する場合、コンクリートと鉄筋等を丁寧に、積み上げながら、高層建築物をつくることと似ています。建物を支える土台となる基礎工事は、地下深く杭を打ち込んで、硬い岩盤まで到達させて、高層建築物を支える役割を果たします。その上に、一階、二階・・・何十階と天高く積み上げていきます。この構造は、家庭教育と学校教育の関係にも当てはまります。家庭教育の基礎の上に、学校教育があります。学習に大きな影響を与えるとされる忍耐力などは、幼児の頃に、本の読み聞かせなどを通して、身につけていきます。

しかし、家庭で、ゲーム、インターネットやテレビ等に無中になり、宿題や読書をしていないまま登校したり、また、睡眠時間が不足して、授業に集中できなかったりすることにより、やらなければならないことを先延ばしする悪い習慣が身につけてしまいます。この悪しき習慣は、学習内容を定着させる機会を奪うことになります。

3 ずるずる先延ばしをしないために ※習慣化への努力が必要です！

まず、学習環境を整えてあげてください。家庭学習の時間を決め、集中できなくなる「きっかけ(テレビをつけたまま等)」を学習時間中だけ、なくしてあげてください。但し、学習時間は子どもの発達段階をふまえ、決めてあげてください。学習時間を終われば、決められた就寝時間までテレビをみたり、ゲーム等したりできることを習慣化できれば、先延ばしを防ぐことができます。